

1 事業名等(Plan 1)

事業名	耕作放棄地対策事業											
所属名	農政部 農務課 農委・農地グループ											
第七次総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちづくりをめざして	分野	2	農業	基本施策	1	個性ある農業生産地づくりを行う	施策	1	競争力のある生産基盤の整備
予算科目	5	1	3	農業振興	費	51392	耕作放棄地対策	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市農業振興事業補助金交付要綱											
事業の実施主体	○ 市 市以外→											
事業の実施方法	直営 指定管理 業務委託 ○ 団体等補助 その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	耕作放棄地を解消するために取り組みをする団体、企業等	受益者数	7 団体
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	耕作放棄地を解消することで、農産物の生産供給のほか、農地が洪水防止などの多面的機能を発揮することで、水環境や自然環境を維持する。また、地域の団体や企業などが耕作放棄地の解消に取り組むことで、地域振興のきっかけとする。		
概要	事業の実施手法、手順	耕作放棄地を解消しようとする団体、企業等が地域の耕作放棄地マップを作成。その耕作放棄地マップにより解消しようとする農地を明確にするとともに、耕作放棄地再生計画を作成し、その計画に基づいて事業を実施する。		
概要	事業始期・終期	始期: 20 年度から 終期: 年度まで 設定なし ○		
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)		5,000	5,000	10,000	10,000	10,000	
総合計画計画額(計画額)		5,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
事業費	予算額	5,000	10,000	10,000			
	(計画・予算・見込・決算額)	513	9,638				
財源	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
		決算・見込					
一般財源	予算額	5,000	10,000	10,000			
	決算・見込	513	9,638				
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-			
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	5	100			
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	16	300			
コスト	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
コスト	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	耕作放棄地等の解消面積	資料・出展	耕作放棄地再生事業の再生面積	単位	ha
	活動			算出式	解消面積			活動の方向
	目標値							
	実績値	3.2	6.4					→
	達成率			0	0	0	0	
成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名		資料・出展		単位	
	成果			算出式				成果の方向
	目標値							
	実績値							
	達成率							

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	耕作放棄地の解消は、日本国内全域で課題となっている。高山市においても、農業委員会の耕作放棄地調査では166ha農地が耕作放棄地になっている。今後、高齢化の進行が著しい地域や鳥獣被害が増加している地域では、耕作放棄される恐れのある農地は計り知れない状況であることから、市としても取り組むべき重要な施策である。	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価 <b>A</b>
	②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)	減少 維持 <b>1</b> 増加	項目 ②コスト面 ③成果面 拡大 維持 <b>○</b> 減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	耕作放棄地の解消には画一的なものではなく、作付部分の整備から水路及び取り付け道路の修繕に至るまで様々なため評価できるだけの実績が乏しい。今年度(平成22年度)の実績を踏まえて、単位面積当たりの事業費等について検討していく必要がある。	拡大 維持 <b>1</b> 減少	コスト・成果ポジション <b>E</b> 第3水準
	(判定理由)	耕作放棄地の解消面積だけを捉えると、確実に成果が出ている。しかし、計画で示された作付作物が計画通り栽培され、生産販売に至るかについては今後も推移を見守る必要があり、場合によっては助言や指導が必要となる。		

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

現在は地域の主体的な取り組みを重視して、再生するための対象経費については特段の規制がなく、再生の手法・経費などについて地域の団体や企業によってかなり差が生じている。

5 今後の方向性(Action)

活動の方針	評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了
	事業の目的としては市農政の振興を図る上で重要であり、継続していく。一方で、事業経費の見直し、事業の手法などコスト意識について、他の事業との連携も視野に入れて検討していく。	
活動の方針	次年度の実施方針	事業の目的を効率的に達成するには、耕作放棄地を再生するにあたり、この耕作放棄地再生事業(市単独事業)だけでなく、国・県の事業の活用や市の他の事業と連携した取り組みが必要である。今後は、この事業で取り組むべき再生事業の内容について検討し、その内容を明確にするとともに、他事業との連携も考慮し、効率的で有効な事業の展開を推進する。

一次評価 主管課	III
判断の理由	事業の目的としては市農政の振興を図る上で重要であり、継続する必要があるものと考えられる。一方で、事業経費の見直し、事業の手法などコスト意識について、他の事業との連携も視野に入れて検討していく必要がある。

総合評価	中 中 III
判断の理由等	「II」以上の水準に向けた改善が必要 耕作放棄地は農業従事者の高齢化の一層の進展により加速度的に増加していくことが予想される。そのため、本事業による耕作放棄地の解消と併せ、既存の農地の耕作放棄地の集積や農業以外での利用(景観面を考慮した菜の花等の作付け)なども実施していく必要がある。 また、農地法改正により耕作放棄地所有者に対する指導・勧告の権限が農業委員会に付与されたため、これらの活動と併せ、耕作放棄地の解消に取り組む必要がある。